

4月19日 ルカによる福音書19章1～10節

【解説と黙想】

一番大切なこと：神の子とされて

【教理の解説】

『子どもと親のカテキズム』の最初の問答は、「私たちにとって一番大切なことは何ですか」と問うて、「神さまの子どもとして、神さまと共に歩むことです」と答えます。「神さまの子どもとして」という言葉は、子ども向けのカテキズムらしい表現であり、このあと全体にわたって繰り返し出てきます。「歩む」という言葉と共に大切なキーワードです。そして、この「子ども」という言葉には、年齢が低い子どもという意味だけではなく、「父なる神さまの子ども」という意味で、年齢に関係なくすべての信仰者が子どもであるという意味があります。ウェストミンスター小教理問答が問34で、救いの祝福として義認と聖化のあいだに挙げている「子とされること」の恵みです。『子どもと親のカテキズム』はこの恵みを一番大切なこととして第一の問答で取り上げるのです。

【テキストの解説】

イエスさまの救いの恵みが分かりやすく教えられているザアカイの物語が選ばれています。徴税人の頭で、お金をだまして取っていたザアカイが、イエスさまを見ようといちじく桑の木に登りましたが、イエスさまの方がザアカイを見つけて、「急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」(5節)と声をかけてください

ました。救いはイエスさまからの働きかけによるという恵みが教えられています。そして、すぐに木から降りて来てイエスさまを迎えたザアカイの姿には、救われた者の喜びがあらわれています。イエスさまは最後に、「この人もアブラハムの子なのだから」と言われました。神さまの恵みの契約に連なるアブラハムの子孫であり、救われて神さまの子どもとなるということです。ザアカイは神の子とされる恵みにあずかったのです。

【黙想】

子どもたちもよく知っているザアカイの話です。背の低いザアカイが木に登った姿には親しみのようなものも感じますが、ここには大人の世界があふれています。徴税人という仕事と不正な働き、悪口をつぶやく周りの人々。しかし、そうした中にあるからこそ、イエスさまを見ようと思ったザアカイ、そしてイエスさまに見出されたザアカイの姿が子どものように輝いて見えます。ザアカイは、一番大切なことを手にすることができたのです。

【子どもへのメッセージ】

神さまの子どもとされることのすばらしさを知ってほしいと思います。それが一番大切なことです。そして、それは、神さまにとっても一番大切で、うれしいことなのです。(石原知弘)

【参照聖句】 ガラテヤの信徒への手紙3章26節、4章5～7節、エフェソの信徒への手紙1章4、5節、17節、5章8節、ヨハネの手紙一3章1～3節

【教理問答】 子どもと親のカテキズム 問3、4、13、16、17、27、36、37、39、42、43、44、52、56、86、87、89、92、93、95、96、ウェストミンスター小教理問答 問1、32、34、36、100、ハイデルベルク信仰問答 問1、26、27、28、33

4月19日 ルカによる福音書19章1～10節

【説教展開例】

一番大切なこと：神の子とされて

◇..... 単元のねらい◇

「神さまと共に歩むこと」を一番大切なこととして教えるカテキズムの第一問は、そこに「神さまの子どもとして」という言葉を加えています。ウェストminster小教理問答では義認と聖化と並ぶ救いの恵みの一つである神の子とされることを、一番大切なこととしてカテキズムは強調しています。子どもたちが、他にもない神さまの子どもであることとその恵みのすばらしさを伝え、だからこそ喜んで神さまと共に歩んで行けるということを教えたいと思います。そして、それは、教える側の大人もまた神さまの子どもとされている喜びの中にいることによって、いっそうよく届けられるでしょう。

「神さまの子どもとされたザアカイ」

みんなは独りでいる時間があるでしょうか。独りでいるのはさびしいものです。誰か一緒にいてくれたらなと思います。でも、誰でもいいというわけではないでしょう。怒ったり、悪口を言うてくる人と一緒にいるのは、独りでいるよりもつらいでしょう。それなら独りでいた方がいいと思います。大事なのは、どういう人が一緒にいてくれるかです。

カテキズムの第一問で、私たちにとって一番大切なことは、神さまと共に歩むことだと学びました。でも、少し考えてみてください。神さまと共にいることは、本当にうれしいことでしょうか。例えば、神さまが怖い方だったらどうでしょうか。私たちには罪という悪い心と行いがあり、神さまは罪をお嫌いになります。そうだとしたら、神さまは罪人である私たちの横で、怒っておられるのではないのでしょうか。そのような神さまと一緒にいるのは、つらいことではないのでしょうか。

でも、神さまは怖い方ではありません。怒っておられる方ではありません。なぜなら、神さまは、私たちをご自分の子どもとしてくださり、私たちを愛して、守ってくださるからです。ですから、一番大切なことは、私たちが「神さまの子どもとして」、神さまと共に歩んでいくことなのです。

聖書には、神さまがそのように罪人を愛してくださって、ご自分の子どもとしてくださったお話がたくさん出てきます。今日のザアカイの話もその一つです。

エリコの町に、ザアカイという人がいました。徴税人というみんなからお金を集める仕事をしていました。ところが、決められた金額よりもたくさんお金をだまし取ったりすることがあったようで、町の人たちからはとても嫌われていたようです。だから、いつも独りぼっちだったようです。

そのエリコの町へ、イエスさまがやって来られました。みんなイエスさまを見ようと集まってきましたが、ザアカイもイエスさまを見たいと思いました。ところが、背の低かったザアカイはみんなの後ろでよく見えなかったため、先回りして木に登り、そこからイエスさまを見ようとしました。

やがて、イエスさまがそこを通りかかりました。ザアカイのところからどれぐらいイエスさまが見えたか分かりませんが、なんとイエスさまの方からはザアカイのことがよく見えたようです。イエスさまは木の下に来ると、ザアカイに言いました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」(5節)。ザアカイはびっくりしたかもしれませんが、急いで降りて来て、イエスさまを自分の家

に迎えました。

このお話は、イエスさまの恵みと優しさにあふれています。イエスさまは、ザアカイがどういう人か、知っていたと思います。ずるいことをしてお金をたくさん取っていたことも知っていたと思います。でも、そのことを話してザアカイを怒るのではなく、ザアカイの家に泊まりたい、ザアカイと一緒にいたいと言ってくださったのです。ザアカイは、うれしかったと思います。

ところが、そんなイエスさまとザアカイを見て、周りの人は言いました。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった」。ザアカイのことを嫌っていた人たちが、イエスさまに対しても悪口を言ったのです。

しかし、この後、ザアカイは8節で、「わたしは財産の半分を貧しい人に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」と言いました。ザアカイは、イエスさまの優しさにふれて、自分が悪いことをしてきたことを心から悔い改めたのです。

イエスさまは9節で、「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから」と言われました。アブラハムの子とは、神さまが救いの契約を結ばれたアブラハムの子孫ということであり、神さまご自身の子どもであるということです。ザアカイは、イエスさまと出会って、神さまの子どもとされたのです。ザアカイにとって、神さまと一緒にいてくださることは、恐いことではなく、とてもうれしいことになったのです。

みんなにも、イエスさまは語りかけてくださっています。「おいで、あなたと一緒にいたい」と。だから、急いでイエスさまのところに行って、イエスさまを信じてほしいと思います。そして、神さまの子どもとされて、毎日喜んで歩いてほしいと思います。私たちにとって一番大切なことは、神さまにとっても一番大切なことで

す。神さまご自身が、みんなのことを子どもにしたい、みんなのお父さんになりたいと思っておられるのです。それほど神さまは、みんな一人ひとりのことを大切にしてくださっているのです。

そして、神さまの子どもは、大人になっても、神さまの子どもです。小さいから子どもなのではなくて、神さまがお父さんだから、神さまの子どもです。だから、大人になっても、おじいちゃんやおばあちゃんになっても、神さまの子どもです。いつまでも、神さまの子どもとして歩いてほしいと思います。今日の箇所に出てきたのは、みんな大人でした。そして、大人の世界には、徴税人の不正であったり、誰かの悪口であったり、そういう悪いことがたくさんあります。でも、だからこそ、そういう大人の世界の中でも、私たちはいつまでも神さまの子どもでいたいと思います。ザアカイは、木に登ったりして、子どもみたいなところがありました。木登りができなくても大丈夫です。イエスさまが大好きで、イエスさまが来てくださるのを喜ぶのが神さまの子どもなのです。

『子どもと親のカテキズム』には、このあと何回も「神さまの子ども」という言葉が出てきます。見つけながら読んでみてください。その神さまの子どもというのは、ザアカイのことであり、みんな一人ひとりのことなのです。

そして、これから大人になっても、このカテキズムを読み続けてほしいと思います。大人になっても、そこに出てくる神さまの子どもとは自分のことです。そして、いつか、聖書のことを教えてもらう神さまの子どもから、聖書のことを教えてあげる神さまの子どもになってほしいと思います。教会学校の生徒から教会学校の先生になってくれたらうれしいと思います。神さまの子どもとして、神さまと共に歩む道は、これからもずっと続いていくのです。

(石原知弘)

《今週の暗唱聖句》

あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。

(ガラテヤの信徒への手紙3章26節)

4月19日 ルカによる福音書19章1～10節

【分級展開例A】

かみさまの子どもとされる

〈はじめに〉

「子どもと親のカテキズム」の間1の答の前半『神さまの子どもとして』を、分かり易くするために用いるルカ福音書の“徴税人ザアカイ”の話である。したがって、「エリコ」の町の人々から「罪深い男」として見下されていた「徴税人の頭」ザアカイを、まず主イエスが「見」いだし、その男の「家に泊まり」、それに対してザアカイは素直に「喜んでイエスを迎えた」。そして、またザアカイの悔い改めゆえに、「救い」そのものである主がザアカイへの「救い」を宣言され、ザアカイを「アブラハムの子」と呼んで真の神の子と認められたのである。【A（幼稚科）】の教師は、ザアカイ物語と「神さまの子どもとされる」こととの整合性をつかんでおかなければならない。

〈もんだい〉

しつもん1

イエスさまを見ようとしたザアカイは、どうしましたか？

- ① 人々を押しつけて前に行った
- ② いちじく桑の木に登った
- ③ ドローンを飛ばした

しつもん2

イチジク桑の木の上にいるザアカイを見上げたイエスさまは、何と言いましたか？

(正解はふたつ)

- ① ずっとそこにいなさい
- ② 急いで降りて来なさい
- ③ エリコにホテルはありますか
- ④ あなたの家に泊まりたい

4月19日 ルカによる福音書19章1～10節

【分級展開例B】

一番大切なこと：神の子とされて

一番大切なことは何か、この問いは、二番目に大切なことを考えることを許さないほどに圧倒的な問いです。これがなければ、二番も三番はもとよりすべてが空しくなり、意味がなくなってしまう、そのような絶対的な問いです。もとより、ここで問うのは、私たち人間の側のことです。しかし、実は、それは神にとっても一番だということでもあります。神にとって一番大切なこと、それが私たちが神の子とすること、そのようにしてご自身とともに歩む者とすること、歩むことなのです。そのために神は遂に、御子を人として与え、私どもと共に歩むための救いの御業を成し遂げ、そればかりか永遠に歩む祝福を与えて下さったのです。なんという恵み、何と言う光栄でしょうか。私たちの幸いもまたそこにあります。神と私たちにとっての第一のことが一つになる、そのすばらしい愛の交わり、救いの道、神の恵みの筋道を学び体得することがカテキズム教育です。

1. ザアカイさんってどんな人ですか？
徴税人の頭。不正な仕事で大金持ち。孤独な人。
2. イエスさまは、何を一番にしておられたのでしょうか？
イエスさまは、ザアカイの友達になることを第一にしています。
3. どうしてイエスさまはザアカイのことを知っていたのですか？
イエスさまは神さまですから、生まれる前からザアカイのことを知っていました。
4. どうしてイエスさまはザアカイの家に泊まりたかったのですか？
ザアカイが本当は神さまの子どもであることを気づかせるため。ザアカイの友達になりたかったから。
5. どうしてザアカイは、急いで降りて来て、イエスさまを家に招き入れたのですか？
イエスさまが自分に関心を持っていることにびっくりして感動したから。
6. どうしてザアカイの家に救いが訪れたのですか？
イエスさまを自分の家に喜んで迎え入れたから。このイエスを主、救い主として信じたから。
7. あなたは神さまの子どもですか？
イエスさまを信じれば、イエスさまの十字架のおかげで、罪が赦されて、神さまの子どもです。
8. あなたは、神さまの子どもになりたいですか？
はい。神さまが一番それを願っておられるなら、わたしもそれを一番にしたいです。

4月19日 ルカによる福音書19章1～10節

【分級展開例C】

一番大切なこと：神の子とされて

1. ザアカイさんってどんな人ですか？
徴税人の頭。不正な仕事で大金持ち。いじわるをする人（弱い者いじめ、必要以上のお金をとりあげる）であり、いじわるされる人（人垣をつくってイエスさまを見えなくさせられる）。神を信じていない人であり、むしろ信じている人を軽蔑する人。宗教生活を誇る偽善的な生き方より、世の中は「お金が一番大切！」であると割り切って生きていた人。その意味では、一本筋を通すタイプの人。
2. お金が一番のザアカイさんとまわりの人たちは仲良しでしたか？
仲良しなのは、徴税人仲間だけ。お金が一番の人は、人と仲良くできなくなる。神を一番にしたザアカイは、神の子どもたちの家族に加えられる。
3. イエスさまは、何を一番にしておられたのでしょうか？
イエスさまは、ザアカイの友達になることを第一にしています。いっしょに生きて行く友達、いっしょに歩いて行く仲間です。その為に、人に悪口を言われても平気です。
4. どうしてイエスさまはザアカイの家に泊まりたかったのですか？
ザアカイが本当は神さまの子どもであることを気づかせるため。神さまから離れて、孤独なザアカイがかわいそうに思ったから。ザアカイの友達になりたかったから。
5. どうしてザアカイは、急いで降りて来て、イエスさまを家に招き入れたのですか？
罪人だと言われる人の家に泊まる人は、宗教の掟を破ると思われていたのに、それほどまでして、自分に関心を持ってくださり、愛してくださることに感動したから。
6. どうしてザアカイの家に救いが訪れたのですか？
イエスさまを自分の家に喜んで迎え入れたから。このイエスを主、救い主として信じたから。
財産を処分しようとしたからではなく、それは、罪を赦された喜びの結果。
7. あなたは神さまの子どもですか？
イエスさまを信じれば、イエスさまの十字架のおかげで、罪が赦されて、神さまの子どもです。
8. あなたは、神さまの子どもになりたいですか？
はい。神さまが一番それを願っておられるなら、わたしもそれを一番にしたいです。